

学芸員だより（第 10 号）トリカブトー日本三大有毒植物のひとつー

令和 7 年 10 月

東海村歴史と未来の交流館 博物館長 安嶋 隆

トリカブト属 主な文献や研究報告例

牧野富太郎・根本完爾（1931）『訂正増補日本植物総覧』春陽堂

およそ 100 年前、日本に生育する植物をまとめたもの。トリカブト属は変種を含めて約 50 種が記録されています。当時、すでにトリカブト属が多様性に富んでいることがわかっていました。いまでも植物分類学には欠かせない文献。

中井猛之進（1950）『満洲，朝鮮，日本，臺灣，樺太，千島産のトリカブト類の分類について（日本植物学会第 14 回大会講演要旨）』植物学雑誌 63(7)：53-57

日本植物分類学会での発表内容。

田村道夫・難波恒雄（1959）『日本産トリカブト属の検索表 1 北海道および千島』植物分類地理 18(2)：68-72.

冒頭に、「トリカブトは大へんに変化する植物で、分類する上に決め手になる特徴がない。したがって、その種を同定するには、かなり多くの個体について、いろいろな特徴を総合して判断しなければならない。産地を考慮することも大切である。ただ一枚の茎の一部だけをちぎったような標本や産地の判らない標本では、確実な同定することは難しい場合が多い。」という記述があります。トリカブト属の分類の難しさを的確に表現しています。

斎木保久（1974）『日本産トリカブトの分類』東海自然誌 1：15-21.

トリカブト属の識別形質や分類上の問題点が多いことを指摘。特に日本列島におけるトリカブト属の分布図は参考になります。

鈴木昌友他（1981）『茨城県植物誌』茨城県植物誌刊行会

「ヤマトリカブト *Aconitum japonicum* Thunb. var. *montanum* Nakai は県内に普通に生育、ツクバトリカブト *Aconitum tsukubense* Nakai は筑波山にまれ。」として、この 2 種類を別種として記録している。

[門田裕一（1983）『茨城県植物研究ノート\(1\)』筑波実験植物園研報 2：93-107](#)

茨城県のトリカブト属について、「これまで筑波山をはじめとした茨城県内にやや普通に生育するとされていたヤマトリカブトはツクバトリカブトに合一するのが妥当である」と記述しています。学名は *Aconitum japonicum* Thunb. subsp. *maritimum* (Nakai ex Tamura & Namba) Kadota に変更しました。

[Kadota Yuichi（1987）“A revision of Aconitum subgenus Aconitum \(Ranunculaceae\) of East Asia” Sanwa Shoyaku Company](#)

トリカブト属研究のためのバイブル。各種類の解説、分布図などが詳細にまとめられています。

[田村道夫（1990）『キンポウゲ科の分類 1』植物分類地理 41:91-100](#)

キンポウゲ科の分類の概説とともにトリカブト属についても触れています。

[米倉浩司・梶田忠（2003-）『BG Plants』和名-学名インデックス（YList）](#)

過去の文献も含めて、日本に生育する植物の総目録の Web 版。学名や発表された雑誌など、ほとんどの文献が掲載されています。常に更新されています。

[加藤雅啓・海老原淳（2011）『日本の固有植物』東海大学出版会](#)

トリカブト属は 28 種類 8 亜種 6 変種あり、そのうち 23 種類 8 亜種 6 変種を固有植物”として掲載しています。

[邑田仁・米倉浩司（2014）『日本維管束植物目録』北隆館](#)

和名-学名インデックス（YList）の刊行本。

[門田裕一（2016）『キンポウゲ科トリカブト属\(改訂新版 日本の野生植物 2\)』平凡社](#)

最新の研究成果が記述されています。

安嶋 隆

- ・自然部門(高等植物担当)
- ・村内に生育する植物の目録作成(外来植物、絶滅危惧植物などを含む)と植物生態調査を実施・保存・記録すること。